

厚生労働省などの統計によると、日本で2010年に新たにがんにかかった人は男性が46万8048人、女性が33万7188人の計80万5236人と推定されました。これは1975年の計20万6702人の約4倍になります。

がん増加の理由は急速に進む高齢化です。生涯にがんにかかる確率は男性60%、女性

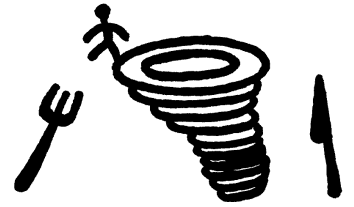
がん社会 を診る

中川 恵一

45%と試算されています。どの臓器に多いのかをみると、男性では胃、肺、大腸の順でした。一方、女性は乳、大腸、胃となっています。

死亡数が多い順に並べると、男性が肺、胃、大腸で、女性は大腸、肺、胃でした。がんによる死者は12年の統計によると、男性21万5110人、女性14万5853人の計36万9

欧米化、急速に進行



イラスト・中村 久美

63人。がんで死亡する確率は男性26%、女性16%です。

欧米ではがんによる死亡数がすでに減少に転じていますが、日本では増え続けています。ただ、例外的に死亡数が減っているものもあります。胃、肝臓、子宮頸(けい)部のがんです。

この3つに共通するのは、感染によって引き起こされるという事です。胃がんではピロリ菌が、子宮頸がんでは性交渉で感染するヒトパピローマウイルスがいなければ、発症することはありません。肝臓がんの原因の8割程度は、B型とC型の肝炎ウイルスです。

胃がんが減ったのは、冷蔵庫などの普及で衛生状態がよくなり、ピロリ菌の感染が減ったからだといわれています。子宮頸がんもコンドームやシャワーを使うなど清潔を心がければ予防できます。また、輸血用の血液を調べることでウイルス性肝炎が減った結果、肝臓がんによる死亡も減少しました。

現在、日本で発症が増えているのが、男性の前立腺がんと女性の乳がんです。欧米では男女それぞれで1位となっています。

背景にあるのが「食の欧米化」です。前立腺がんは男性ホルモン、乳がんは女性ホルモンの刺激で増えます。性ホルモンはコレステロールを原材料として精巣、卵巣で合成します。

日本人の肉の摂取量はこの半世紀で10倍近くに増えました。それに伴って、欧米型のがんが増えたのだといえます。「がんの欧米化」が急速に進行しているのです。

(東京大学病院准教授)